

# 平成26年度 沖縄県立北部農林高等学校(定時制課程) 学校評価の結果

I 調査期間		2. 評価者(回答人数/対象全体数=回答率)	
①教職員 : 平成26年12月2日～12月8日	①教職員 16人/全16人(教育職+事務現業/回答率100%)	②生徒 : 平成26年12月2日～12月18日	②生徒 50人/全82人(実施時の活動生/回答率61.0%)
③保護者 : 平成26年12月4日～12月24日	③保護者 5人/全81人(同上の保護者/回答率6.2%)	④学校評議員 : 平成26年12月10日～12月24日	④学校評議員 4人/全5人(回答率80.0%)
⑤外部関係者 : 実施なし	⑤外部関係者の評価 実施なし		
II 今年度の成果と課題			
<p>【成果】1) 技能資格取得や進路活動の充実が図られた。主なものとして、①小型移動式クレーン運転技能士: 5人、車両系建設機械運転技能士: 4人、アーク溶接作業従事者: 2人、危険物取扱乙種4類: 1人、玉掛け技能士: 1人、日本語ワープロ検定準2級: 1人 ②進学 琉球大学工学部合格: 1人、県立農業大学校合格: 1人、就職(正規採用) 県外企業: 2人、県内企業: 6人</p> <p>2) 部活動の活躍 ①体育系 県高校定時制通信制夏季体育大会陸上競技で男子総合優勝(平成2年以來24年ぶり。同女子は総合準優勝。全国定通体育大会へ出場した部活: 陸上競技部、男子バレーボール部 県高校駅伝競技大会及び県高校新人駅伝競技大会へ出場</p> <p>②文化系 沖縄県農業クラブ大会(FFO)プロジェクト発表部門へ学校代表として出場、沖縄県定通高校ワープロ技能競技団体3位</p>			
<p>【課題】1) 単位修得率の向上 % (前期67.9% 後期: %) 前年度64.9% 前々年度52.4%</p> <p>2) 卒業者数の増加 (卒業者21人/4年生: 18人、3年生: 3人) 前年度15人 前々年度13人</p> <p>3) 中途退学対策の強化(退学者13人 H270319現在 年度当初目標10人以下) 前年度19人 前々年度11人</p>			
III 年度当初の教育目標・経営方針・努力目標			
<p>1) 人間尊重の教育を基礎に、生活の規律性と他者との協調性を高め、勤学勤労の精神を備えた人物を育成する</p> <p>2) 学校と家庭と地域が一体となって、生徒に自己肯定感と生きぬく力をつけ、自立できる人物を育成する</p> <p>3) 教職員の資質向上を図り、全職員が共通理解の下、力を合わせ学校運営の円滑化と教育目標を実現に努める</p>			
<p>IV 評価 1) 個人 A: よくできている B: だいたいできている C: あまりできていない D: 全くできていない</p> <p>2) 総合 A: 十分達成(A支持+B支持: 全体80%以上) C: 達成不十分(A支持+B支持: 全体の60%未満)</p> <p>B: 概ね達成(A支持+B支持: 全体60%以上) D: 達成不可(A支持+B支持: 全体の30%未満)</p> <p>「個人(対象別)評価」は、個人が判断した結果を評価段階別の人数合計でまとめ、その割合を表したもの。「全体」は、個人(対象別)評価全数を母数にした割合。「総合」は、「全体」の結果をもとに、上IV2)の要領で達成の度合いを表したもの。</p>			
評価項目	具体的目標及び取り組み内容	総合	個人(対象別)評価の結果(内訳)
①教育目標・学校運営	1) 定時制課程が目指す生徒像は教職員と生徒保護者に理解され、実践されている	A	教職員 A: 30.8% B: 65.4% C: 3.8% D: 0%
	2) 生徒は学校が行う諸活動を通じて、自主性と社会性を育み、人として成長している		生徒 A: 23.0% B: 53.0% C: 19.0% D: 5.0%
			保護者 A: 0% B: 87.5% C: 12.5% D: 0%
			評議員 A: 75.0% B: 25.0% C: 0% D: 0%
			全体 A: 28.9% B: 52.4% C: 14.7% D: 7.0%
②教育相談	1) 教師は生徒の個性を尊重し、個に応じた徳育・人権教育を推進している	B	教職員 A: 23.1% B: 53.8% C: 23.1% D: 0%
	2) 生徒は教師に心を開き、信頼を寄せている		生徒 A: 23.0% B: 43.0% C: 25.0% D: 9.0%
			保護者 A: 0% B: 75.5% C: 25.0% D: 0%
			評議員 A: 37.5% B: 62.5% C: 0% D: 0%
			全体 A: 21.2% B: 45.0% C: 21.9% D: 11.9%
③教科指導	1) 学習年間計画及びシラバスに基づいた授業を展開している	A	教職員 A: 27.0% B: 53.8% C: 17.2% D: 0%
	2) 教師は創意工夫し、生徒が「分かる授業」「参加する」を実践している		生徒 A: 20.8% B: 59.9% C: 15.8% D: 3.5%
			保護者 A: 0% B: 81.2% C: 18.8% D: 0%
			評議員 A: 43.7% B: 56.3% C: 0% D: 0%
			全体 A: 22.8% B: 59.3% C: 13.0% D: 4.9%
④進路指導	1) 生徒は将来に対し、具体的な目標や希望を持っている	B	教職員 A: 11.6% B: 42.3% C: 42.3% D: 3.8%
	2) 教職員はキャリア教育の充実させ、生徒に職業観・勤労観を育てている		生徒 A: 22.2% B: 49.6% C: 21.2% D: 14.0%
			保護者 A: 0% B: 75.0% C: 25.0% D: 0%
			評議員 A: 50.0% B: 50.0% C: 0% D: 0%
			全体 A: 8.1% B: 57.8% C: 27.6% D: 6.5%

V 評価項目 具体的目標及び取り組み内容	総合	個人(対象別)評価の結果(内訳)					
⑤生徒指導 1)生徒は他者に対する礼節を重んじ、あいさつを交わす習慣を備えている 2)教職員は生徒へ危機管理に対する啓発を行い、生徒も校則や法律の順守している	A	教職員 生徒 保護者 評議員	A:19.2% A:36.1% A: 0% A:42.0%	B:50.0% B:50.5% B:100% B:58.0%	C:30.8% C:12.4% C: 0% C: 0%	D: 0% D:21.0% D: 0% D: 0%	全体 A:30.5% B:53.2% C:14.9% D: 1.4%
⑥校内美化・安全管理 1)教育施設及び校内はよく整備され、清潔で使用しやすい状態を保っている 2)危機管理マニュアルに基づき、防犯・防災の対策を徹底している	B	教職員 生徒 保護者 評議員	A:26.9% A:24.5% A: 0% A:25.0%	B:46.1% B:44.9% B:90.0% B:62.5%	C:23.1% C:11.4% C:10.0% C:12.5%	D:11.5% D: 7.2% D: 0% D: 0%	全体 A:23.2% B:48.6% C:22.6% D: 5.65%
⑦特別活動 1)生徒は学級活動(SHRやLHRなど)に参加し、学校の発信情報を聴いて、理解している 2)生徒は生徒会行事や部活動に参加し、学校生活を楽しんでいる	B	教職員 生徒 保護者 評議員	A:30.8% A:28.6% A: 0% A:37.5%	B:30.8% B:42.9% B:80.0% B:62.5%	C:26.9% C:21.4% C:10.0% C: 0%	D:11.5% D: 7.1% D:10.0% D: 0%	全体 A:26.2% B:41.6% C:24.8% D: 7.4%
⑧家庭との連携 1)生徒は学校が発信する情報や学校での出来事を家庭に伝えている 2)学校が行う諸教育活動は家庭の協力を得て行われている	C	教職員 生徒 保護者 評議員	A: 0% A:20.4% A: 0% A: 0%	B: 0% B:50.0% B:80.0% B:100%	C:84.6% C:18.4% C: 0% C: 0%	D:15.4% D:12.2% D:20.0% D: 0%	全体 A:14.1% B:45.0% C:28.2% D:12.7%
⑨生徒の愛校心と充実感 1)生徒は本校定時制課程の生徒として日々充実した学校生活を送り、学校に帰属意識を持っている	A	教職員 生徒 保護者 評議員	A:100% A:41.6% A:20.0% A:50.0%	B: 0% B:45.8% B:60.0% B:50.0%	C: 0% C: 6.3% C:20.0% C: 0%	D: 0% D: 6.3% D: 0% D: 0%	全体 A:32.9% B:57.1% C: 5.7% D: 4.3%

上記①～⑨は学校評価として、全対象に共通項目として調査実施したもの  
下⑩は教職員の業務効率化調査、衛生委員会開催、教職員評価システム最終自己申告書をもとに集計したもの

⑩教職員の負担軽減対策、安全衛生対策及び不祥事対策

1)年次休暇等は必要に応じて取ることができる	取りやすい:33.3% 比較的取りやすい:26.7% 取りにくい:40.0%
2)勤務時間内の業務量は多いと感じる	少ない: 6.6% どちらとも言えない:46.7% 多い:46.7%
3)毎日「忙しい」と感じる	感じない:7.1% あまり感じない:28.6% 感じる:64.3%
4)定期健診を受け、健康管理に取り組んでいる	定期健診受診率:92.3% 産業医による職員の健康状態把握率:92.3%
5)服務規律について教職員評価システムの自己申告書の中に取り入れ、不祥事防止を徹底して行っている	自己申告書に掲載:100% コンプライアンス順守:100%

VI 総括(評価結果の分析と考察)

今年度の評価の全集計結果を分析・考察すると、本校の様子として次のようなことが分かった。  
総合評価がAになったものが4項目あり、その中で⑨「生徒の愛校心と充実感」は、昨年度に続き今年度も最も高い評価を受けている。本校生の7割強が第2希望か第2次募集で入学している実情を考えると、入学後に学校生活を肯定的に受けとめる生徒に変容していくことがうかがえる。注目すべきは、⑧「家庭との連携」はCで、教職員側が非常に厳しい評価を出している一方、生徒は保護者は相対する内容になっていることである。このことから学校と家庭の関係づくりには課題がある、と言えよう。教職員が家庭に求める連携とは何か、どうすれば家庭の協力が得られるのか。具体策を出し、実践すべきは学校側にあるだろう。  
最後に、保護者の回答率が昨年度に続き非常に低い。今年度は回答率を上げるために、全ての家庭に評価シートを郵送したが、期待に応える回収率には到底及ばなかった。これも家庭との連携の不十分さ現れなのか。

VII 次年度に向けた取り組み計画

- 1)本県北部にある唯一の定時制単位制高校なので、地域のセーフティネットとしての役割をしっかりと果たす
- 2)生徒の規範意識(自律力)と勤労精神を育む学習支援を行う場としての態勢を確立する
- 3)単位修得率と卒業率を高めるために、退学者や不登校・欠席がちな生徒を減らす具体的な工夫を講じ、実践する
- 4)卒業生が具体的な将来設計を描いて、進学や就職(アルバイトの継続ではない)するよう、教職員の指導力を向上させる